研究主題・副題　　　国語科における効果的な表現力の育成及び評価方法

～話すこと・聞くこと領域を中心として～

金沢市立俵小学校　魚住　孝子

1.　主題･副題の設定理由

平成１０年の学習指導要領の改訂のポイントは，前学習指導要領にはなかった「伝え合う力」が重視され，新たに加えられたこと,「表現力」が「理解力」より前に位置づけられていることである。この人間形成に資する「伝え合う力」の育成の基盤とも言うべき,「表現力」の効果的な育成及び評価方法を研究したいと考え，本主題を設定した。

また、人間の言語生活の大半を占め,「伝え合う力」すなわち人間関係力を高める上で最も大切な領域である「話すこと・聞くこと」領域を中心に研究を進めることにした。

2.研究内容

（１）国語科における表現力

言語表現力

音声言語表現力（話す力）

文字言語表現力（書く力）

主に「話すこと・聞くこと」「書くこと」領域で育成されるが,「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域で育成された力が，互いに転移または並行に機能し合うことによってより効果的に育成されると考えられる。

（２）「話すこと・聞くこと」領域における表現力（音声言語表現力）とその育成

◆能力面からのとらえ＜現学習指導要領＞

◆技術面からのとらえ＜堀裕嗣氏＞

順序を組み立てて分かりやすく話す技術　など

（双括型・ナンバリング・ラベリング・オリエンテーション）

◆ジャンル面からのとらえ＜光村図書＞

会話（フリートーキング・会議・討論）

対話（あいさつ・対談・インタビュー・応対など）

独話（発表・スピーチ・説明・報告・紹介）

「ジャンル面」の視点からとらえると，それぞれのジャンルで必要な「能力面」「技術面」も明らかになってくる可能性が考えられ,「描写」「スピーチ」「発表」「話し合い（会議）」「ディベート」における授業実践を行った。

3.結論

（１）表現力の効果的な育成方法について

①言語表現の各ジャンルで必要とされる表現力の違いを教師自身が把握し，そのジャンルに合った技能を獲得できるように指導していかなければならない。また，学年に応じて表現力が高まるように系統的に指導していくことが重要である。

②「話すこと・聞くこと」領域の音声言語表現力は,「書くこと」領域の文字言語表現力（取材力・構成力・叙述力）に支えられている。相互の関連をより意識し，年間指導計画を立てることが重要である。

（２）表現力の効果的な評価方法について

①ねらいに対する児童の到達度を把握した指導法の改善，学習過程における自己評価など，表現力の育成に役立つ形成的評価が重要である。

②つけたい力を焦点化・具体化して評価することが重要である。